

尿漏れの低周波治療

大坂市の主婦A子さん(75)は30年来、尿が漏れる症状に悩んでいた。「年のせい」とあきらめていたが、衣服をぬらし、家族に連れて日にも何度も着替えた。昨秋、思い切って泌尿器科を訪ね、「尿失禁」と診断されて治療を受けた。週1回だけで治まらず、今年9月、電気刺激で骨盤内の筋肉や神経を刺激する「干渉低周波治療」を始めた。今も治療に通うが、「漏れる回数も大幅に減りました。明るい気持ちで外出できます」と話す。

(中島久美子)

尿失禁は男性より女性に多く、成人女性の4人に1人が悩むと言われるほどだ。女性の場合、尿漏れの3分の2を占めるのが、運動やくしゃみでおなかに力が入ると漏れる「腹圧性尿失禁」だ。残りは主に、尿意を催してからトイレに行くまで我慢できない「切迫性尿失禁」や、両方の症状がある「混合型尿失禁」。A子さんの場合も「混

骨盤の筋肉 電気で収縮

合型」だった。「腹圧性」の原因は、子宮や膀胱などの骨盤内の臓器を支える筋肉(骨盤底筋)が、加齢や出産で徐々に緩み、尿道や膀胱の位置が不安定になることだ。「切迫性」は、骨盤底筋の緩みのほか、膀胱を収縮させて排尿する神経の異常もある。タイプや重症度に応じ、薬タイプや重症度に応じ、薬や理学療法(体操や電気・磁気刺激)、手術を組み合わせて治療する。

「腹圧性」の場合、重症なら「テーピング」で尿意を支え、TVT手術や、膀胱をつり上げる手術を行う。「切迫性」は手術では治らないため、神経をコントロールする薬(抗コリン薬)を使う。

程度から中度なら、いずれの場合も骨盤底筋を鍛える体操や理学療法(体操や電気・磁気刺激)、手術を組み合わせて治療する。

「腹圧性」の場合、重症なら「テーピング」で尿意を支え、TVT手術や、膀胱をつり上げる手術を行う。「切迫性」は手術では治らないため、神経をコントロールする薬(抗コリン薬)を使う。

程度から中度なら、いずれの場合も骨盤底筋を鍛える体操や理学療法(体操や電気・磁気刺激)、手術を組み合わせて治療する。

- 干渉低周波治療を行う主な医療機関
- 聖徳病院(福島) ☎024・935・9912
 - 筑波学園病院(茨城) ☎029・836・1355
 - 独協医大(栃木) ☎0282・86・1111
 - 独協医大越谷(埼玉) ☎048・965・1111
 - 木戸クリニック(同) ☎04・2929・6502
 - 東京警察病院(東京) ☎03・3263・1371
 - 辻野クリニック(同) ☎0426・66・7064
 - 仲田クリニック(同) ☎03・5749・5117
- ※湘南鎌倉総合病院(神奈川) ☎0467・46・1717
- しお医院(静岡) ☎054・247・4011
- 福井大(福井) ☎0776・61・3111
- 大阪中央病院(大阪) ☎06・4795・5505
- 倉敷中央病院(岡山) ☎086・422・0210
- 松山赤十字病院(愛媛) ☎089・924・1111
- すやま泌尿器科クリニック(福岡) ☎092・591・3306
- ※は産婦人科。無印は泌尿器科。このほかの施設は、「ウロマスター(尿失禁治療器)納入施設」として「すみれ医療」のホームページ(<http://www.sumire-medical.co.jp/news/service/index.html>)に掲載。

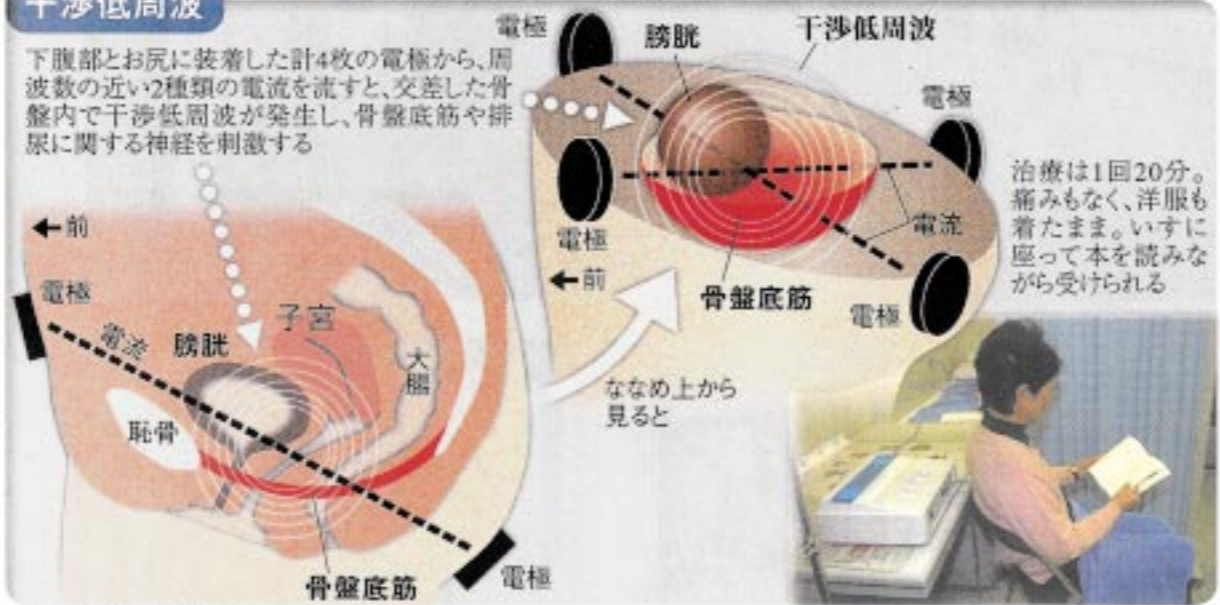
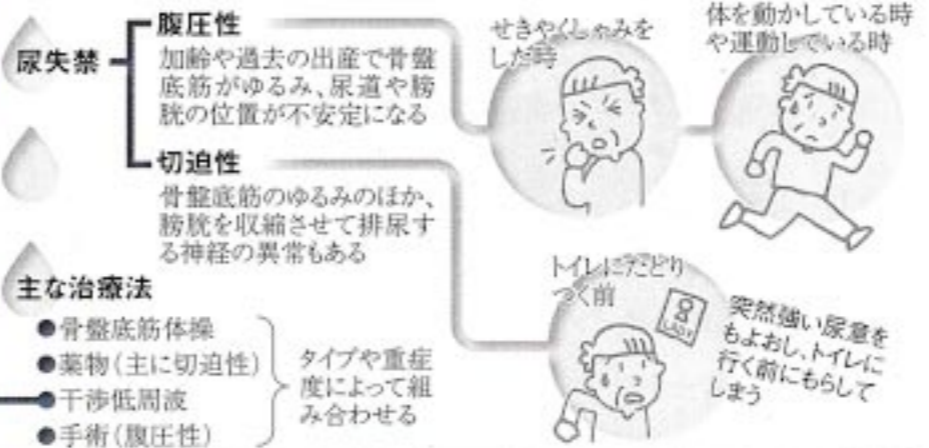


(今回は1月16日掲載)

このページは医療情報部、科学部が担当しています。ご意見、情報をお寄せください。〒100・8055読売新聞東京本社医療情報部 ファクス03・3217・1960 電子メールiryu@yomluri.com



尿失禁の干渉低周波治療



作図:デザイン課 斎藤 仁

胃潰瘍治療薬が下痢招く

潰瘍の治療に使われるプロトンポンプ阻害薬(PPI)など、胃酸分泌を抑える作用がある。胃潰瘍治療薬として、プロトンポンプ阻害薬の服用すると、感染性の下痢症になりやすいことが、オランダのマキル大学の研究でわかった。米医師会雑誌に発表した。

研究チームは、1994年から2004年までに、感染性のクロストリジウム・デフィシル関連下痢症(CDAD)と診断された1672人を対象に、胃酸

の分泌を抑えるプロトンポンプ阻害薬、H2ブロッカーといった胃潰瘍治療薬などの服用状況を最低2年間、調査した。

CDADは、抗生物質が効かないことが問題になっており、院内感染の可能性もあるため入院の有無も調べたが、患者のうち74%は入院歴がなく、病院以外で感染したと見られた。

この結果、CDADの発症率は、94年に比べ04年は22倍に急上昇。胃酸抑制薬の使用も増加しており、プロトンポンプ阻害薬の使用者は服用しない人に比べ3倍、H2ブロッカー使用者も2倍、CDADの発症率が高かった。

研究チームは「胃酸の分泌抑制により、感染性に対する抵抗力が低下したことが原因と見られる」としており、薬の過剰投与は避ける必要がある。

医見 疑問 共感 ● 良い精神科・心療内科

母親がうつ病になって悩む男性。夫が自殺してPTSD(心的外傷後ストレス障害)になった女性……。心の病を抱えた人やその家族から、医療情報部に投書が届きます。そこには、つらい体験や悩み、こんな質問が寄せられています。心療内科は、患者の話を聴くのに時間がかかり、治療件数(患者の数)が多い医療機関ほど実力があるとは限りません。

「近くに良い医療機関はないのだから、わざわざ遠くまで行くのが難しい質問はないのです。がんや心臓病なら、手術件数や5年生存率など、その病

母親がうつ病になって悩む男性。夫が自殺してPTSD(心的外傷後ストレス障害)になった女性……。心の病を抱えた人やその家族から、医療情報部に投書が届きます。そこには、つらい体験や悩み、こんな質問が寄せられています。心療内科は、患者の話を聴くのに時間がかかり、治療件数(患者の数)が多い医療機関ほど実力があるとは限りません。

「近くに良い医療機関はないのだから、わざわざ遠くまで行くのが難しい質問はないのです。がんや心臓病なら、手術件数や5年生存率など、その病

心の病……相性合う医師で

「精神科・心療内科」を探し出すのは、なかなか難しいです。「難しいですね」と言いますが、なかなか見つからないアトバイスももらいました。

まずは、インターネットで判断するしかないです。その判断基準は、▽医師やカウンセラーが、「感じが良いか?安心できるか?」など、自分と相性が合う▽診断、治療法、薬の説明が詳しく、質問にはきちんと答えてくれる▽薬をやたらに何種類も出さない▽など。

もし病気がなかなか良くなり、これらの判断基準にも合わないなら、一度、別の医療機関に相談してみてもいいか?が、(山口博孝)

乳がん治療に専門センター

え続ける乳がん患者にきめ細かな対応をしようと、順天堂医院(東京都文京区)富野野院長は来月4日、乳がん専門医や看護士を集めた「乳がんセンター」を開院する。

多くの医療機関では、乳がん治療は乳癌外科や外科が窓口となっている。しかし、乳がんには手術のほか放射線や抗がん剤治療、術後ケアなど、患者は放射線科、乳癌再建を担う形成外科など各科を回らなければならない。

富野野院長は「乳がん治療には、様々な診療科が連携するセンター化が重要だ。(他の医療機関の)モデルケースとなるような体制を築きたい」と話している。

同センターには月1土曜日まで、常駐の外科医に加え、日替わりで放射線治療医、形成外科医、薬物治療を専門とする腫瘍内科医、痛みを和らげる緩和ケア医師らが診察する。手術後に必要なリハビリや浮腫を看護士がケアする外来も検討中だ。

2002年にこの治療を導入した大阪中央病院(大阪市)泌尿器科部長の竹山政美さんは「治療効果高めめるには、骨盤底筋体操と併用するのが基本。3か月しても効果が無い場合、腹圧性なら手術、切迫性は薬物治療を柱にします」と話している。

また、治療をやめると再び症状が出ることも多い。切迫性の場合には薬も併用する。

「シンボジウム」脳のスポーツ医学新戦略」1月21日午後7時、東京・お台場の日本科学未来館。スポーツと脳の関係などについて専門家が話す。無料。申し込みは、日本臨床スポーツ医学会事務局へファクス(03・32542・1532)電話専用)か電子メール(rnsp@rnsp.jp)。

近い種類の電流が交差した場所では新たに生まれる微弱な電流のことで、下部とおしりに装着した計4枚の電極から、4000mA、4000mAといった電流を、骨盤内で交差するように流す。発生した弱い電流(10~50%)が奥の骨盤底筋を収縮させ、排尿に関する神経も刺激する。

1回の治療は約20分間。痛みや皮膚への刺激はほとんどなく、着衣のまま受けられる。保険が適用され、自己負担は数百円から1000円程度だ。最初の1か月は6回、以降は月2回ほど行う。

「牛乳・乳製品から食と健康を考える」1月20日午後1時30分、東京・有楽町の有楽町朝日ホール。作家の神津かなんさんらと交え、牛乳の効用や活用方法を考える。無料。日本乳業協会(☎03・3261・9165)に申し込む。

「シンボジウム」パーキンソン病の最新治療」1月14日午後1時、東京・港区の虎ノ門パストラル。専門医が講演。無料。国立精神・神経センター(武蔵野病院)☎042・341・2712内線3419。